



頭と顔、少し場所が違うように感じます。よく模式図でみるような左右に分かれた大脳は確頭の上のほうにありますが、小脳、脳幹というところは後頭部、ちょうど顔の後ろに納まっています。実はこの脳幹というところからたくさんの神経が出ています。顔の神経もこの脳幹から出ています。

今回は顔が曲がってしまう「顔面けいれん」と顔が痛くなる「三叉（さんさ）神経痛」についてお話します。

ストレスなどがあると、片方の目じりのところが「ぴくっ、ぴくっ」と小さくけいれんしてしまうことがあります。経験されたかたは多いと思います。小さくけいれんしているうちはまだいいのですが、けいれんしすぎて目が開けられない、別にウィンクをしたいわけでもないのに目をつむってしまう、さらに眼だけではなく口元までひきつってしまう病気があります。「顔面けいれん」という病気です。

これは、脳幹から出ている神経のうち、顔を動かす神経、顔面神経が刺激されるためにおきます。なぜ、刺激されるかということ、顔面神経のすぐ横には小脳を栄養とする動脈が走っています。この動脈が動脈硬化などで蛇行すると顔面神経に触れてしまいます。これが刺激となって勝手に顔の片方がひきつたようになってしまいます。

治療はまず、薬で神経を押さえます。薬でも効かない場合には手術で圧迫している血管をよけてあげます。おかしいなと思ったらかかりつけ医に相談してみましょう。

次は顔が痛くなる病気、「三叉神経痛」です。なぜ三叉神経という名前がついているかということ、顔の感覚の神経は脳幹からでて、おでこに行く枝、頬っぺたに行く枝、そして下あごに行く枝と、三つの枝に分かれて走行するからです。この三叉神経も先ほどの顔面けいれんの時のように、蛇行した血管の刺激を受け、激しい痛みを起こすことがあります。食べ物を噛んだ時に激痛が走る、歯磨きの時に激痛が走る、時には触っただけ、風が吹いただけでも激痛に襲われることがあります。特に多いのが下あごの痛みです。

三叉神経痛は、痛みによって十分な食事をとれないことで栄養バランスが崩れ、十分な歯磨きができず虫歯や歯周病を悪化させる原因になりますので治療が必要です。一般の痛み止めでは効かないことがあります。適切な薬による治療、薬でも効かない場合には手術によって圧迫している血管をよけてあげます。おかしいなと思ったらかかりつけ医に相談してみましょう。

不自然に顔が曲がってしまう、もしかしたら顔面けいれんかもしれません
虫歯でもないのに激痛が走る、もしかしたら三叉神経痛かもしれません

脳かかりつけ医に相談してみましょう。